

## 事業概要書

事業名	持続可能な伝承活動を実現するための人材育成事業～「ふくしま」の複合災害を語り継ぐ語り人（かたりべ）育成講座の新たな取り組み				
開始日	2023年12月1日	終了日	2024年11月30日	日数	366日
団体名	特定非営利活動法人富岡町3・11を語る会				
(カウンターパート)	ふくしま語り部ネットワーク				
担当者名	栗城愛梨	スタッフ人数	4人		

事業費総額（税込）	3,516,000円
CF事業枠	3,500,000円
その他資金	16,000円

事業目的	<p>複合災害によって奪われた「人々のつながり」を取り戻すこと、そして新たなコミュニティの再生を目的に、課題を共有し共に歩く“地域や世代を越えた仲間作り”を行うことで、福島現状や課題を伝える「語り人（かたりべ）」の育成に取り組む。</p>
事業全体の概要	<p><b>●富岡町3・11を語る会とは</b>                  2011年3月11日12日の東日本大震災・原子力災害によって全町避難を余儀なくされた双葉郡富岡町の被災の現状、現在も続く長期にわたる避難生活の実態、復興に向かう人々の心情、町の課題などを語り伝える活動をしている。                  福島の復興の原動力は、複合災害によって奪われた「人のつながり」を取り戻し、新たなコミュニティを再生することに他ならないという考えのもと、地域を越え世代を越えて、事業を展開している。</p> <p><b>●ふくしま語り部ネットワークとは</b>                  2022年11月、福島県内で震災語り部活動に取り組む団体の連携を目的として県内17団体が集まり立ち上げた組織（※1）。福島県が事務局を担い、当会代表の青木が会長を務めている。加盟団体との情報共有のほか、加盟団体で活動する語り部との連携により、富岡町だけでなく「福島」を語れる語り人の育成が可能となる。</p> <p><b>※1…参考資料/福島民報 2022年11月7日記事</b>  <a href="https://www.minpo.jp/news/moredetail/20221107102212">https://www.minpo.jp/news/moredetail/20221107102212</a></p> <p><b>●1期事業の成果と課題</b>                  震災後、伝承活動の中心となって活動に取り組んできた語り人（かたりべ）の高齢化が進み、担い手の減少とさらなる震災の風化が懸念されている。異常気象による自然災害や南海トラフ地震、首都直下型地震への備えが叫ばれる中、震災そして原発事故の教訓</p>

が語り継ぐことは多くの命を救うことに繋がる。しかし伝承活動そのものへの助成がほぼなく人材の育成もままならない状況であった。そこで、パートナー協働事業では語り人を育成し、共に活動していく仲間を増やすために以下の事業を実施した。

### **コンポーネント①世代別「語り人」教室の開催と交流の場の提供**

#### **【成果】**

- ・語り人教室の受講者が世代ごとに、町の現状を知る方法を発見した。  
例：「目で見える。」「話を聞く。」「資料を調べる」
- ・語り人教室の受講者と「町に暮らす人」との出会いが、災害の現状と課題を語り継ぐ伝承活動にとって重要であることを確認できた。
- ・町に宿泊して育成講座を受講することで、町の現状がより理解できた。
- ・現在「語り人」として活動している人たちの「迷い」「悩み」と、これから語っていかうとしている人たちの「不安」を話し合い、理解し合う場を作ることができた。
- ・「伝承祭」では、各講座の受講者が発表の場を体験し、視聴者を前に、「伝える」ための話し方、資料の見せ方などを工夫し、達成感を得た。
- ・他地域の高校生が約 40 名参加し、受講生の「語り人」としての発表を聞くことができた。

#### **【課題】**

- ・児童にとって、「語り人」は「特別な活動」であり、「年を取った人」がやるものという先入観があり、「語り人育成講座」への興味関心がわかなかった。児童が興味を持ち魅力を感じる「語り人活動」の展開を考えることが課題である。
- ・開催場所が富岡町のみであったことで、通うことが負担となり受講をあきらめた人がいた。
- ・宿泊を伴う受講者にとって、富岡町の宿泊環境がよくなかった。（宿泊費が高い）
- ・若い世代に繋いでいく立場である「一般」の世代の人たちが、語ることに「自信」「喜び」「生きがい」「誇り」を感じられるような「講座」を開く必要がある。
- ・「伝承祭」の開催が富岡町のみであったため、参加者（視聴者）が限られてしまった。

### **コンポーネント②「語り人」育成プログラムの作成**

#### **【成果】**

- ・「語り人」「伝承活動」の定義からしっかりと検討し、共通見解を持つことができた。
- ・先進地の視察研修によって、次のことが学べた。
  - ①長崎では、行政が関わって伝承活動の組織、システムを創っている。
  - ②「体験者」「伝承者」の継承への過程が確立している。

#### **【課題】**

- ・プログラム作成にまでは至らなかった。（2023 年度は福島県との連携で実現を目指す。）
- ・福島県（生涯学習課）が取り組む伝承活動のプログラムを作成するプロジェクト会議に本会の 2022 年度の成果を活かしていく。

## ● パートナー協働プログラム対象事業

### ■コンポーネント①語り人育成講座の改変

現在、本会がふくしま語り部ネットワークの一員として参画する形で県の事業としての育成講座が本年度よりスタートしている（※2）。同じ目的を持った事業が、いたずらに重複することを避け、連携して有効な育成事業となっていくための重要な第一歩である。

これらの動きを踏まえ、若い世代が伝承活動に興味関心を持ち「語り人になりたい」と考えるようになるには何が必要か？を主眼にし、育成講座の改変をする。

（注）小・中学生は「ふるさと創生学」などで総合的な学習の時間に学ぶ時間がある。各町村の教育委員会と連携し、授業に組み入れてもらうため、対象外。また、高校生：県教委の高校生語り部育成事業と連携して別途行うため、こちらも対象外となっている。

※2…参考資料 福島民友新聞 2023年11月20日付

<https://www.minyu-net.com/shasetsu/shasetsu/FM20231121-820189.php>

#### 【育成講座の対象】

一般、大学生（経験の有無を問わず）

#### 【育成講座の会場】

はま（浜通り）・なか（中通り）・あいづ（富岡町、いわき市、郡山市、会津若松市）

#### 【講座の内容】

1回の講座あたり基本2時間

第1回：コミュニケーションワークショップ（体を自由に！心を自由に！）

講師 日本演劇教育連盟より派遣

第2回：話し方を学ぶ

講師 宗方和子

第3回：福島を知ろう

バスツアー（いわき～新地）

実施期間 1泊2日

各地アーカイブ、被災地ツアーの視察

第4回：私が今語りたいこと

### ■コンポーネント②伝承祭の拡大開催

昨年度、富岡町文化交流センターで聴衆を集めた語り人の学びの成果について多くの方が聞く機会を作ったが、富岡町で開催したために地域を超えての参加者は少なかった。

今年度は、はま（浜通り）・なか（中通り）・あいづ（富岡町、いわき市、郡山市、会津

若松市)で研修した成果を発表し、それぞれの地域の人々に伝承活動の意義を知ってもらう。

また、福島県教育委員会(以下、県教委)の「高校生語り部育成事業」と生涯学習課の「語り部育成事業」と連携して、本会の伝承祭にそれぞれの受講者が発表者、または観客として参加することを協議する。

### ●期待される効果

#### 1 語り人活動の広がり と 継続

##### (1) 対象の改変

現在伝承活動を行っている「語り人(かたりべ)」が研修し、スキルアップすることで、次世代の人たちが伝承活動への興味関心をもち、「かたりべとなること」に魅力を感じるようになる。語り人の次世代へのバトンタッチが可能になり、伝承活動の継続が実現する。

##### (2) 地域ごとの開催(育成講座、伝承祭)

- ・ 育成講座への参加者が広がり、増える
- ・ 被災地復興の「見える化」

伝承祭を各地域で開催することにより、被災地への理解が広がり、復興の原動力となる人のつながりが目に見える形で大きくなっていく。

### ■今後の展開

#### 福島県との協力

##### ① 県教育委員会が2021年度から始めた「高校生の語り部育成事業」との連携。

本会の語り人が育成事業の講座の講師を務めている。(伝承館、各高校)県教委が、この事業を取り入れた学校で実施しているのは「伝承館視察」、「各学校で講師を招いて受講」の経費負担にとどまる。それ以外は各学校が生徒の課題を引き出し、その解決に向けての調査や検証を指導し、最終的には発表会で発表するなど、学校側に一任されている。

現在、本会では、県教委から伝承館や各学校での講義の依頼を受け対応しているが、今後、課題の調査や検証の指導が必要になることから、本会がその業務を受託できるような体制を等整える。

##### ② 県生涯学習課が、2022年度から「語り部育成事業」を企画し、本県の語り部事業の持続可能な基盤づくりを始めた。一足早く着手している本会と連携し、今年度は、担当者が本会の事業に度々参加し研修し長崎視察にも同行した。さらに、本県の語り部活動をしている団体のネットワークづくりを進め、語り部ネットワーク会議を設立し、本会代表の青木淑子が会長になった。育成プログラムの作成も計画していることから、今年度は、連携と事業のすみわけを明確にし、行政の力を取り入れながら育成事業の強化を図りたいと考える。

##### (2) 富岡町との協力

##### ① 町教育委員会からは、語り人育成講座の実施については、「共催」を受けており、会

	<p>場費を無料としてもらっている。</p> <p>②生涯学習課管轄の「とみおかアーカイブ・ミュージアム」との連携を今後は強化し、アーカイブ・ミュージアム内で語り人活動が実施できればと申請している。</p> <p>(3) 3.11 メモリアルネットワークとの連携</p> <p>岩手・宮城・福島三県の語り部活動の連携と組織化は、今後の伝承活動を持続していくうえで、必要なことであり、連携を強化していきたいと考える。</p>
事業内容(事業種別 (コンポーネント) ごと)	裨益者 (誰が、何人)
<p><b><u>コンポーネント①語り人育成講座の改変</u></b></p> <p>富岡町、会津、中通り、浜通りの3地域での語り人育成講座の実施 各地区2回(1回2~3時間) 合同1回(1泊2日)実施</p> <p>1) 富岡町 2) いわき市 3) 郡山市 4) 会津地区</p> <p><b>【スケジュール】</b></p> <p>第1回: コミュニケーションワークショップ (体を自由に! 心を自由に!) 講師 日本演劇教育連盟より派遣</p> <p>第2回: 話し方を学ぶ 講師 宗方和子</p> <p>第3回: 福島を知ろう (4地区合同開催) バスツアー (いわき~新地) 実施期間 1泊2日 各地アーカイブ、被災地ツアーの視察</p> <p>第4回: 私が今語りたいこと</p>	<p>福島県内</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学生対象</li> <li>・福島県民対象</li> </ul> <p style="text-align: right;">等 合計 4,000 人</p>
<p><b><u>コンポーネント②伝承祭の開催</u></b></p> <p>富岡町、いわき市、郡山市、会津地区にて、1年間の取り組みの成果を発表する「伝承祭」を各1回開催する。</p>	<p>福島県民</p> <p style="text-align: right;">合計 10,000 人</p>